

カリキュラムマネジメントを実践するための校長の役割とは

カリキュラムマネジメントを実践するには、校長の役割が重要です。福祉教育・ボランティア学習を推進していくためには、校長と連携・協力しながら教育課程を作っていくことが大切です。

校長に役割には特に次の4つのポイントが考えられます。

○予測不能な時代の学校経営

現代の学校は、多様化する教育課題や地域ニーズへの対応を迫られています。校長に求められるのは、単なる管理能力ではなく、明確なビジョンに基づき組織を動かす「変革のリーダーシップ」です。文部科学省の学校経営指針においても、自律的・組織的な学校運営の重要性が強調されています。

○共有されるビジョンの構築

リーダーシップの第一歩は、教職員・保護者・地域と共有できる「目指すべき子供の姿」を言語化することです。数値目標に留まらない、魂の通ったビジョンが教職員の主体性を引き出します。対話を通じて納得解を形成し、ベクトルを一致させることが経営の基盤となります。

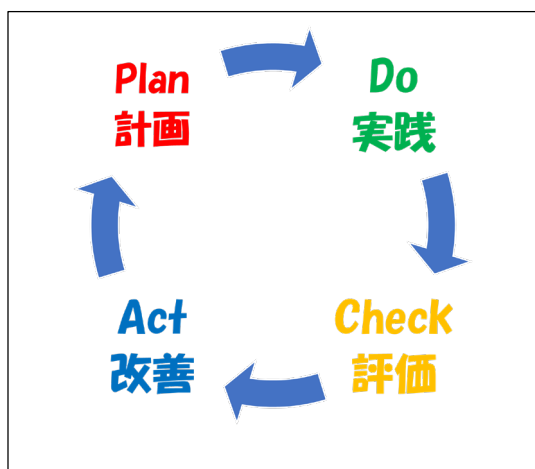
○心理的安全性の確保と組織文化

教職員が失敗を恐れず挑戦できる環境「心理的安全性の高い職場」の構築は校長の責務です。若手からベテランまでが意見を出し合える風通しの良さが、教育活動の質を向上させます。校長自らが「聴く姿勢」を示し、信頼関係の土壌を耕すことが組織活性化の鍵です。

○持続可能な学校経営に向けて

教職員のウェルビーイング向上と業務改善は、教育の質に直結します。ICTの積極活用や事務効率化を断行し、教員が子供と向き合う時間を確保する決断力が求められます。未来を見据えた戦略的な経営こそが、持続可能な学校教育を実現する唯一の道です。

【学校経営における PDCA サイクルの構成】



- **Plan (計画)** : 教育課程の編成、重点目標の設定、指導計画の作成
- **Do (実践)** : 学習指導の展開、教科横断的な学びの実施、組織的な指導
- **Check (評価)** : 学習状況の分析、授業アンケート、教職員の自己評価
- **Act (改善)** : 指導方法の見直し、次年度計画への反映、リソースの再配分

○総合的な学習の時間を核とした探究

教科横断の結節点となるのが「総合的な学習（探究）の時間」です。地域課題や福祉、SDGsなどをテーマに、各教科で得た資質・能力を発揮させる舞台を整えます。校長が外部機関や専門家とのネットワークを繋ぐことで、学校の壁を越えたダイナミックなカリキュラム展開が可能になります。

○地域連携を「外部資源」から「教育パートナー」へ

校長は、地域を単なる支援者ではなく、共に子供を育てる「パートナー」として定義し直します。地域連携担当教職員を孤立させず、校長自らが運営協議会等でビジョンを語ることで、地域の教育力をカリキュラムに引き込みます。文部科学省のコミュニティ・スクール推進資料を指針に、学校と地域のWin-Winな関係をデザインします。